

○事業所名	きつずサポートえみ		
○保護者評価実施期間	令和6年 7月 10日		～ 令和6年 8月 9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和6年 8月 1日		～ 令和6年 8月 17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 9月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	集団プログラムのレポートリーと内容の濃さ	①集団プログラムについては、同じ内容のものが同一月に無いように、日替わりで作成をしている。 ②集団プログラムを行うにあたって、必ず企画内容及び流れやスタッフの配置を細かく記入したプログラム企画表を毎日作成配布しており、それをもとに集団プログラムを実施している。	現在は、さらに内容を発展させ、集団プログラムの中で、子どもたち一人ひとりの課題やそれに対しての目標を設定したうえで集団の中で個々の課題にスポットを当てたサポート体制を増やしています。
2	徹底した安全意識	①重大な事故やケガを防ぐために、スタッフの安全意識の向上を図っています。 ②スタッフに大きな負担がないように、スタッフ体制をかなり手厚くしています。常勤5人体制・スタッフ1日6～7人の体制により、子どもたちにマンツーマンに近い支援を提供しています。	安全意識をどれだけ高めても、ヒヤリハットは発生します。ヒヤリハットに対して迅速に社内周知・改善案を出し合い、事故や重大なケガが発生しうる前段階の行動から従業員に注意指導をするなど、安全への意識を徹底しています。
3	子どもたちに向き合う姿勢	何かを注意するときも、できる限り子どもと同じ目線で顔を合わせ、質問を繰り返しながら子どもたち自身がなぜダメなのかを考えられるように支援しています。 また、子どもたちができることはすべて子どもたち自身でできるようにしています。送迎等でもたとえ時間がかかってもカバンを持ちたり、抱っこをしたり、くつをスタッフが履かせることは一切しません。	子どもたちにとって「できること・できないこと」は何か？それが「子どものためになるのか」、子どもたち自身の気持ちと保護者にとっての「こうなってほしい」要望など色々な面でバランスを取りながら、スタッフ一人ひとりがしっかり考えて子どもたちと関わりを持てるように丁寧な指導を行うようにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所のスペースが広くないため、子どもたちが10人いると手狭に感じる。またそのため保護者も一緒に参加するイベントや企画の開催が難しい。	もともとメインで取り組む内容が集団療育で、保育所の1クラスの教室くらいのスペースで集団生活上の課題にスポットを当てた療育を行うため、広いスペースは想定をしていないことが要因だと思います。	事業所の方針として、そこまで広いスペースは必要ないが、結果的に保護者も一緒に参加する企画が開催できないため、今後保護者も参加したり、保護者同士の交流ができるイベントを屋外活動等で開催するなどの工夫をしていく。
2	事故防止や緊急時対応時、防犯、感染症対応等を事業所でルールや基準を定めてはいるが、一部マニュアルとして明文化ができていない	マニュアルを作成する時間の確保が一番の課題です。また、まだオープンして2年で、緊急時等に適切な対応をする体制の整備を最優先に実施したことが要因だと思います。	スタッフ体制が整いつつある中で、業務継続計画や安全計画の作成と合わせて、役員・施設長・主任等で緊急時等の対応やルールを再度話し合い、マニュアルとして周知できるように進めます。
3	中学生～高校生の児童の対応への経験が少ない	幼児～小学生の利用児童が多いこと、またスタッフの過去の経験も幼児～小学生が多いため、中学生への支援方法や関わり方を学ぶ機会が少なかったこと	現在、中学生の利用児がいるため、それぞれのスタッフに実践しながら関わる方法をレクチャーしています。 また、中学生向けの事業所の見学を行ったり、研修を受講するなど学ぶ機会を増やす

事業所名	きっずサポートえみ（放デイ）					公表日	2024年 10月 1日	
	利用児童数				回収数			
	12名				6			
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	3	2		1		・建物の構造上、難しい部分もありますが、様々な工夫をしながら、お子さんたちがのびのびと活動できるスペースを確保できるようにします。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	4	1		1	・知らされておらずわかりません ・適切だと思います	・えみでは、子どもの安全と質の高い支援を提供するためにできる限り子ども2人に対し職員1人で対応する体制を取っています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1	1		4	・確認したことがなかったです ・バリアフリーな環境だと思います	・子どもの年齢や発達段階、障害特性に応じて見通しを立てやすいように流れボードやイラストを取り入れています。また、子どもたち自身が自分の特性を理解し、必要な情報を得ていく力や誰かに聞く、助けを求める力を培っていくために不親切な部分もありますが、配慮と子どもたちの持つ力のバランスを取りながら対応しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	4			2		・朝と夕方の2回清掃を行っていますが、業務時間の関係で細かい部分までは取り掛かれていないため、5Sの意識を職員一人一人が持ち、清潔な環境を維持できるようにします。 ・普段の清掃とは別に定期的に大掃除を取り入れて細かな部分の清掃をします。
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	6					・障害特性のみに捉われず、子どもたち一人ひとりの性格や家庭環境、生育歴も踏まえて、オーダーメイドの支援を考え、提供をしています。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6					・支援プログラムはホームページにて公表しています。支援プログラムに沿った支援を心がけていますが、子どもによっては、支援プログラムにこだわらず、その子に合った支援を行うこともあります。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6					・個別支援計画の作成時に、全職員から該当児の課題やニーズをヒアリングしており、様々な視点をもとに個別支援計画を作成する意識を高めています。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	5			1		・個別支援計画はお子さんの課題を踏まえ、できる限り保護者が分かりやすく、イメージしやすいように作成をしています。
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6					・個別支援計画における課題・目標を基に日々の療育プログラムにおいて参加児童一人ひとりに達成目標を設定しています。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	6					・曜日固定で利用されているお子さんと毎日利用するお子さんが同じ内容で飽きないように、日々の活動プログラムは同じ内容を行うことはありません。同じテーマになりやすいもの（リズム遊びや公園遊び）も内容は前回と異なる内容を作るルールをとっています。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。		1	2	3	・現状で十分だと思います	・日程、時間や立地の関係もあり、放課後児童クラブとの交流を図ることが難しい部分がありますが、イベントや屋外活動の機会を利用して地域や他の園の子どもとの交流を図っていきます。 ・また、土曜日の活動で定期的に児童館での活動を入れており、地域の他の子どもと一緒に交流をすることもあります。
保 護	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	5	1				・契約時にできる限り、説明をさせていただいておりますが、もし漏れがありましたら遠慮なくお伺いください。また、支援プログラムは、今年から新しくできましたので、改めて保護者の皆様にご説明をさせていただきます。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	5	1				・今後、より個別支援計画を丁寧に説明するために、保護者面談時に時間を作ったり、送迎時に個別支援計画の補足を丁寧にできるように環境を整えていきます。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1	2	3			・事業所内ではスペースの関係で限られた人数しか対応できないため、今後別の場所を借りて行うイベントにて親子参加ができる内容を増やしていきたいです。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	6					・事業所内外での出来事を問わず、目にしたケガやあざ、体調の変化はその場で上司が目視したうえで、保護者の皆様にご説明をさせていただきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6					・体制を整えて定期面談の機会を増やしていきます。

観 者 へ の 説 明 等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	5			1	・保護者さんに対して、事業所が大切にしている考え方をお伝えしています。子どもたちの成長やステップアップは、保護者さんの理解と協力なしには成立しないため、保護者さんの気持ちや考え方を踏まえて一緒にサポートができるようにしていきます	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。		2	4		・事業所内ではスペースの関係で限られた人数しか対応できないため、保護者の皆様の意見を参考にしながら、今後別の場所を借りて親子参加や保護者同士の交流ができる内容を設けていきたいと思っています。	
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6					・相談や申し入れがあればいつでも遠慮なくお伝えください。できる限りお時間を確保して対応させていただきます。 ・対面でのやりとりが難しい場合は、お電話やLINEでのやり取りも対応させていただきます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	6					・言葉でのやり取りだけでなく、非言語コミュニケーションも使いながら意思疎通を図るようにしています。
	21	定期的な通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6					・インスタグラムやSNSはもちろん、お子さんも一緒に見て楽しめるように、紙の定期通信も検討しています。また、アプリを使用しているため、定期的に様々な情報を発信できるようにしていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6					・個人情報の取り扱いには十分に気を付けるようにしています。会社や施設全体はもちろん、一人ひとりの職員が責任と意識をもって個人情報の取り扱うように指導をしています。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2		2	2	・現在、現場の緊急時などの各種マニュアルを作成しています。それをもとに事業所での緊急時のルール・対応を改めて保護者の皆様にお伝えいたします。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的な避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	4			2	・月に1回ほど、プログラムの中で避難訓練を行っています。現在は震災時を対象にしていますが、火災や不審者を想定した訓練も実施して行きます。	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6					・安全計画は策定をし、事業所にファイルで備え付けてありますが、保護者の皆様にも周知ができていないため、今後事業所のホームページに掲載をします。また連絡アプリを使用して全保護者に安全計画の内容を周知していく予定です。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6					・小さな怪我でもできる限りその場で怪我の状態を写真に撮り、LINEですぐに状況の説明をしています。それと合わせて、送迎時にも改めてお伝えすることを徹底しています。 ・事故や怪我を未然に防ぐことをなにより1番に意識した支援を実施するよう職員への指導や働きかけに力を入れています。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	6				・集団療育で社会性を身につける中で、注意をすることも時には必要ですが、注意ではなく、子どもたちの気持ちと納得がいくまで向き合うことも大切にしています。これからは子どもたちに安心感や信頼感を持ってもらえるように丁寧な対応を心がけます。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6				・集団の中で社会性を身につけるために様々なプログラムを行っています子どもたちにとってはルールを守る=自分の思うとおりにならないことも多々あるかと思いますが、それでも職員はまず「楽しんでほしい」という気持ちをもって子どもたちと関わっています。お子さんが少しでも「楽しかった」といってもらえることが一番の励みです。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	6				・いつも事業所を利用いただき、誠にありがとうございます。えみでは集団療育をベースに子どもたちが社会性を身に付けることを目的として日々活動をしています。これから高質の支援ができるように職員一同頑張ってください。	

事業所名		公表日				
きっずサポートえみ		2024年 10月 1日				
	チェック項目	はい		いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	いいえ			
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5				・建物の構造や床面積上、それぞれのスペースが限られており、利用定員までいくと手狭感があります。 学習机を壁に備え付けて収納できるようにしたり、机・椅子をすべて折り畳みにしたりと物を極力置かずにして広いスペースを確保しています。 ・全面ガラスのため、中から見るとそこまで圧迫感はなく、開放感を感じることができるようにしています。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	1	・職員数は多い ・送迎も同乗体制を考慮している	・質が高く手厚い支援や療育の提供および子どもたちの安全確保を最優先にしているため、スタッフの配置数は多めに設定しており、引き続きこの体制を維持していきます。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		・時間や流れのカードを使用している	・子どもの年齢や発達段階、障害特性に応じて見通しを立てやすいように流れボードやイラストを取り入れています。 ・子どもたち自身が自分の特性を理解し、必要な情報を得ていく力や誰かに聞く、助けを求め力をつけるために不親切な部分もありますが、配慮と子どもたちの持つ力のバランスを取りながら対応をしています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	3	2	・時々ゴミが多いのでしっかりと掃除をしていきます ・虫が多いため、駆除などの対応が必要です	・朝と夕方の2回清掃を行っていますが、細かい部分までは取り掛かれないためSSの意識を職員一人一人が持ち、清潔な環境を維持できるようにします。 ・普段の清掃とは別に定期的な大掃除を取り入れて細かな部分の清掃をします。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	3	2	・構造上、個別の部屋やクールダウンスペースはない	・建物の構造上、個別の部屋のスペースの確保が難しいが、できる限り場所に依存せずに子どもたちがクールダウンや気持ちの切り替えができるようにパニックや癇癩時の向き合い方や声掛けを工夫しています。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5			・毎月、上司と定期面談を行い、それぞれの職員の目標設定と進捗状況、振り返りを行っています。その中で支援や業務の幅が広がるよう一人ひとり職員のキャリア形成もを行っています。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			・評価表の結果を全職員に周知しており、保護者の意向を把握してもらっています。職員からも意見を募っており、それをもとに環境、業務改善を行っています。	
	8 職員の意見を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			・定期面談だけでなく、常時社内チャットで上司から気づきや今日の様子を聞いています。そこで職員の意見を把握しています。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3	・外部との打ち合わせ時に好評いただけている	・現状、第三者による外部評価を行うだけの体制が整っていない。今後必要に応じて検討をしていきます。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			・職員の経験に応じて、必要な外部研修の参加をお願いします。また、事業に関わる研修については職員の受けたい研修・セミナーも自由に受けることができる制度を取り入れています。 ・法人内の研修については、制度上必要な研修をはじめ、法人理念の勉強会や管理職向けに研修を行っています。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			・施設の支援プログラムについては作成を行い、職員に周知をした後、今年中に公開を行います。その際は改めて職員、保護者の皆さんにお知らせをいたします。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			・個別支援計画の作成時に、全職員から該当児の課題やニーズをヒアリングしており様々な視点をもとに個別支援計画を作成する意識を高めています。保護者さんによってはなかなかお会いできない方もいらっしゃいますが、SNSや書面を通して、定期的に要望やニーズをお伺いするようにしています。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			・支援計画を作るにあたって、会議を開催したうえで個々の職員の視点や意見を聞き反映をしています。会議の開催が難しい時も、支援計画案を作成し、それを全職員が回覧し、必要に応じて追加や訂正や気づきを記入してもらい、それをもとに原本を作成しています。	
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			・職員によって計画の把握度合いにはばらつきがあるため、今後支援計画の回覧して終わりにするだけでなく、日々の支援の中で支援計画に基づく課題と目標設定を意識できるようにします。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	常時、社内チャットにて共有しています	・社内チャットにてその都度子どもたちの行動や様子、出来事を共有しています。それとは別に記録として記入し、全職員が自由に回覧をできる状態にしています。 ・職員によっては回覧をしないこともあるため、その都度声をかけるようにしていきます。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			・移行支援及び地域支援について、該当しない児童が多いこと、またセルフプランの方も多く、地域の関係機関（保育園等）との調整が保護者任せになってしまったため、設定が難しい面があります。今後、必要に応じて移行支援及び地域支援に取り組んでいきます。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			・立案はその日の担当のスタッフがメインで行っているが、その中で他のスタッフがサブをにない、連携をとって活動プログラムを行っている。プログラムによっては2人担当もあり、また立案したプログラムは、上司やリーダーが確認をとっており、最終的に様々な職員の視点も取り入れながら立案を行っています。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			・毎月テーマごとに活動プログラムの内容を変えており、同じプログラム内容を行うことはありません。同じテーマになりやすいもの（リズム遊びや公園遊び）も内容は前回と異なる内容を作るルールをとっています。	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			・子どもによって、主に作業療法士の職員を中心に専門的支援として個々の課題に応じて個別療育を行っています。 ・事業所が集団療育をメインにしているため、あまり個別療育の機会がないですが、集団療育の中で、それぞれの子ども課題にスポットをあてて行うことで個別療育と変わらない支援を提供できるようにしています。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			・朝の打ち合わせで、必ずその日の利用児童やプログラムの内容、職員の役割を確認する時間を確保しています。打ち合わせ以外にも児童がいない時間を使い、職員同士で声をかけながら業務の確認をしあう環境づくりや協調性を持って取り組む文化を形成するように、施設・法人で意識して取り組んでいます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5			・送迎や片づけ等で当日の振り返りの時間を確保することが難しいため、翌日の朝の打ち合わせで「昨日のフィードバック」を設け、気づきや改善を行っています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			・紙媒体での記録はとっておらず、業務時間の確保や効率化のために、社内チャットにて支援の検証や出来事、事例、対応方法の記録、共有を図っています。 ・子どもたちの様子が普段と違うときには必ず社内チャットにて報告をし、また、こういう対応をしたという経過も合わせて上げており、結果的にそれが支援の検証・改善につながっています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等サービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			・個別支援計画の期間を6か月に設定しているため、最低6か月ごとに定期的な見直しを行っています。
	24	放課後等サービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	5			・今年からスタートをしたため、現状では試行錯誤をしています。特に地域社会との交流の機会がなかなか提供することができていません。また、児童によっては療育メインで余暇活動を提供できていないため、平日も余暇活動の機会を増やしていこうと検討しています。
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5			・支援をするにあたって、子どもの気持ちを確認しながら、どうしたいのか、どうするのかを子ども自身で考え、行動できるような促しを意識した支援を行っています。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			・現状、サービス担当者会議などは施設長やリーダーなどの役職者が参画している今後、子どもの状況への理解度に応じて現場職員にも参加を促して行きます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			・医療ケアが必要な児童については、訪問看護の担当者や引継ぎをしながら適切なケアができるように体制を整えている。また、相談支援専門員がっている児童に関しては定期的にこちらから連絡を取り、情報共有を行う体制を取っています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5			・児童によっては、実際に学校の先生とケース会議を行っています。また、新規利用児がいるときには、学校に挨拶と送迎の確認を行っています。学校の行事や下校時間についてはほとんど保護者を通して把握することが多いため、学校との共有はほとんどできていません。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4	1		・子どもによっては情報共有を行っています ・就学後は、他に利用児童がいる保育所等との情報共有は時々取ることが出来ていますが、利用児童がいない場合は連携がなかなか取れ
	30	学校を卒業し、放課後等サービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3		・現状、該当する子どもがいません ・現状、障害福祉サービスに移行する対象児童がいない。今後該当するお子さんがいるときは連携を取ります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を回り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3		・児童発達支援センターで行われる研修にできる限り参加をしています。連携はなかなか取りづらい部分があり、気軽に情報交換や情報共有や助言を受ける仕組みが欲しいと思っています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	3		・現状、交流する機会がない。児童館に年に数回訪問したり、地域のイベントに参加することはあるため、そこで地域の子どもたちとの交流を作っていけるとよい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1		・名東区の自立支援協議会の児童部門の担当スタッフを来年度から担わせていただきます。体制が整っている限り、部会ではできる限り参加しています。 ・施設長やリーダーの参加が多いため、現場スタッフも積極的に参加できるようにします。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5			・送迎の引き渡し時や定期面談で1日の様子や子どもたちの状況をお伝えしています。それ以外にも必要に応じてLINEやアプリを使ってリアルタイムでやりとりを行うようにしています。 ・仕事でなかなかお会いできない保護者さんに細かな共有ができておらず、また連絡帳も記入できるスペースが限られているため、その部分をどうやってお伝えしていくかが課題です。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	2		・事業所内ではスペースの関係で限られた人数しか対応できないため、今後別の場所を借りて行いたいイベントにて親子参加ができる内容を増やしていきたいと思っています。
保護	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		・契約時に説明を行っているが、わかりにくかったり、事務的になってしまっている部分があるため、口頭だけではなく、わかりやすい表やテンプレートを新たに作り、合わせた説明ができるように改善をしています。
	37	放課後等サービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4	1		・保護者の面談やフェイスシート、アセスメント、モニタリングを通して、現在、保護者が抱える不安や悩み、子どもたちの課題を中心に支援計画を作成しています。 ・支援計画を作る段階で都合上、面談やヒアリングによるモニタリング・アセスメントができるタイミングがない時もあるので、対面以外で保護者の意向を把握、確認できる方法を確立させていきます。
	38	「放課後等サービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等サービス計画の同意を得ているか。	4	1		・送迎時に支援計画をお渡しすることが多いため、なかなか細かな支援計画の内容を説明できないときがあります。事務的に説明して渡すだけのやり取りにならないように別紙で支援計画書の補足説明を記入してお渡しするなど工夫をしています。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			・現状、子育ての悩み等の相談支援は、施設長やリーダーなど役職者が行っており、子どもの人数との関係で時間の調整が難しいため、特定の職員に依存せず、どの職員もしっかり対応、助言ができる体制を整えて定期的に面談の機会を増やしていきます。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5		・事業所内ではスペースの関係で限られた人数しか対応できないため、今後別の場所を借りて親子参加や保護者同士の交流ができる内容を設けていきたいと思います。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		・保護者からの苦情はできる限り速やかに対応するようにしています。必要に応じて面談の機会を設けるなどして体制を整備しています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		・InstagramやSNSはもちろん、お子さんも一緒に見て楽しめるように、紙の定期通信も検討しています。また、アプリを使用しているため、定期的に様々な情報を今後発信できるようにしていきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		・個人情報の取り扱いについて、書面が多いため、厳重に保管するスペースがだんだん少なくなっている。スペースの拡大やデータ化して保管する方法を進めていく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		・職員によっては、言葉のみに頼り、言葉を持たないお子さんに上手く伝わらないことがあります。言葉でのやり取りだけでなく、非言語コミュニケーションも使いながら意思疎通及び情報伝達ができるよう、職員のスキルアップを図っていきます。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	・事業所のスペースの関係もあり、地域住民を招待して行事を行うことが難しい部分があるが、逆に地域でイベントがある場合は、事業所の子どもたちと一緒に参加しており、地域の人に存在を知ってもらえるように働きかけをしています
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	・見たことがない ・各種マニュアルについて、現在作成を進めており、今後マニュアルに基づいた訓練を実施していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		・業務継続計画（BCP）は策定をし、事業所にファイルで備え付けてあります。BCPをもとに月に1回ほど、プログラムの中で避難訓練を行っています。現在は震災時を対象にしていますが、火災や不審者を想定した訓練も実施して行きます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5		・契約時に、持病、服薬、てんかん発作の有無、アレルギーの有無については必ず確認を行っているとともに、フェイスシートにも記入をお願いしています。 ・また、利用後も服薬が始まった場合は必ず保護者に報告をお願いしています。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	・医師のものはない ・保護者さんの指示のもと実施をおこなっている ・アレルギーについては、保護者の確認のもと、適切な対応を行っています。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		・安全計画は策定をし、事業所にファイルで備え付けてあります。職員によって把握の程度にばらつきがあるため、今後定期的に安全計画の周知および必要な研修、訓練を実施します。また、安全管理業務をメインで担当する職員を配置する予定です。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		・安全計画の取り組み内容については、今後事業所のホームページに掲載します。また連絡アプリを使用して全保護者に安全計画の内容を周知していく予定です。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討しているか。	4	1	・紙ベースではない ・社内チャットにてその都度ヒヤリハット事例を共有する形をとっています。そのうち重要なものについては事例検討会を開催し、検等する流れを取って行きます。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		・年に数回、法人内で虐待防止及び身体拘束についての研修を実施しています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		・身体拘束については、組織内で決定を行っていますが、今まで身体拘束が必要な事例がなく、保護者への説明の機会がありませんでした。今後、身体拘束が必要な事例に備えて、改めて組織体制及び保護者への事前説明を行っていきます。	